聖ダミアノ教会の十字架像からの語りかけと聖フランシスコ
―信仰のまなざしで味わういくつかの気づき―
《聖フランシスコの生涯をていねいに味わい人向け⑤》

(1)　聖フランシスコに十字架像が語りかけた出来事に至るまでの流れ

聖フランシスコは、1181 年または 1182 年、裕福な商人の家に生まれました。1205 年 5 月頃、戦場で手柄を立てて騎士になることを目指しましたが、道中、夢の中で神さまからの働きかけによって、計画を断念しました。

その後、神さまによってハンセン病の人々の中に導かれ、その人々と共にいつくしみを行うという体験をしています。聖フランシスコにとって、ハンセン病の人々を見ることは、あまりにも「苦い」ことでしたが、この体験によって「甘い」ものに変えられました。聖フランシスコは、自身の『遺言』において、神さまがこの回心を行うことをはじめさせてくださったと捉えています。聖フランシスコにとって、「回心を行う」ことと「いつくしみを行う」ことは深く結ばれています（『遺言』1-3 節）。

聖フランシスコは、この体験の後に、アッシジの町の城壁の外にある、小さな聖ダミアノ教会で十字架の板絵から声を聞いています。

(2)　聖フランシスコに十字架像が語りかけた場所

聖ダミアノ教会は、9 世紀の終わり、または 10 世紀のはじめにその基礎が建てられたようです。13 世紀のはじめには、アッシジ教区に属し、司教の管理下に置かれていました。建物の保存状況はよくなかったものの、典礼は執り行われていました [1]。

(3)　聖フランシスコに十字架像が語りかけた時期

この出来事は、聖フランシスコがハンセン病の人を受け入れることができるようになった後に生じた、と考えられています。そのため、1205 年の 8 月の初旬だった可能性があります [2]。

(4)　聖フランシスコに語りかけた十字架像

こんにちの日本では、聖堂内における中心的な十字架像に、立体的な像が用いられています。しかし、12、13 世紀のイタリアでは、板絵がかなり用いられていたようです。

聖フランシスコに語りかけたとされる十字架像の板絵は、12 世紀に作られたと考えられています。ビザンチン様式を用いながら、木に描かれています。誰が描いたかは分かっていません。定説では、ウンブリア地方の十字架像と共通点があり、スポレートにおけるアルベルト・ソツィオの工房で描かれたと言われています。

大きさは、縦 210 センチ、最大の横幅は 130 センチです。ヨハネ福音書から着想を得て、十字架につけられたキリスト、復活なさり栄光に満ちるキリストを合わせて表現しています。大きく開かれた目は、キリストが今も生きておられることを示しています。

聖クララは、1253 年に亡くなり、1255 年に列聖されました。1257 年から、聖クララ大聖堂と聖クララ会の修道院がアッシジの城壁内（聖ゲオルギオ教会）に建設されていきます。こうした中、聖クララ会の姉妹たちも、この新しい修道院に移動しました。それに伴い、聖フランシスコに語りかけた十字架像も、1260 年には聖クララ大聖堂に移され、こんにちに至っています。

---

[1] Cf. URIBE, Fernando, *Itinerari francescani. Visita ai luoghi dove visse san Francesco*, Messaggero di s. Antonio, Padova 1997, p.94.
[2] Cf. DI FONZO, Lorenzo, *Per la cronologia di s. Francesco. Gli anni 1182-1212*, Edizioni Miscellanea Francescana, Roma 1982, p.112.

現在、聖ダミアノ教会には、そのコピーが掲げられています[3]。

(5) 出来事を伝えるいくつかの伝記

聖フランシスコ自身は、この出来事について記していません。

また、最初の伝記である、チェラーノのトマス『祝福されたフランシスコの生涯』と「再発見された、祝福されたフランシスコの生涯」、シュパイエルのユリアノ『聖フランシスコの生涯』、『会のはじまりと創立』には、この出来事は記されていません。

『三人の仲間たちによる伝記』やチェラーノのトマス『霊魂の憧れの記録』以降、記されるようになります。主な内容を比較してみます。

伝記	聖フランシスコを聖ダミアノ教会に導いた方	語りかけた方	語りかけたことば	聖フランシスコの反応と、十字架像のことばの捉え方
三仲間	聖霊？十字架像のイエスさま？	十字架像が語りかける	「フランシスコ、わたしの家が壊れかかっているのが見えないのですか。行きなさい、わたしのためにこれを修復しなさい」	「主よ、喜んでそうします」と答え、喜びに輝く。このときから主の受難を思いめぐらしその傷を担う姿勢は、いずれ聖痕に示される。十字架像の前でともし火が絶えないよう金銭を司祭に差し出す。24 では、人々を修復に招き、聖ダミアノ教会が聖クララたちの住まいとなることを預言
2 チェラーノ	（聖）霊	描かれた十字架像のキリストの唇が動き、語りはじめる	「フランシスコ、行きなさい、わたしの家を修復しなさい、（あなたが）見ているとおり、すべて壊れかかっています」	震え、失神しそうになる。命に従う。十字架の主に深く共感するようになり、いずれ聖痕によってはっきり現れる（11）。11 では、十字架像の前でともし火が絶えないよう金銭を司祭に差し出す。十字架像のキリストのことばは「キリストがご自分の血をもって手に入れた教会」のこと。13 では聖ダミアノ教会の十字架像のためのランプの油を人々に求め、聖ダミアノ教会が聖クララたちの住まいとなることを預言。
3 チェラーノ	―	十字架像の口からことばが発せられる	「フランシスコ、行きなさい、わたしの家を修復しなさい、（あなたが）見ているとおり、すべて壊れかかっています」	主の受難・十字架が深く刻まれ、いずれ聖痕によって十字架の主に似た者とされる
クララ伝記	―	十字架の木から声がくだる	「フランシスコ、行きなさい、わたしの家を修復しなさい、（あなたが）見ているとおり、すべて壊れかかっています」	聖クララは、聖ダミアノ教会を住まいとし、仲間たちの修道会をはじめる。教会の建物が香油の香りで満たされる。
大伝記	（聖）霊	三度、十字架から語りかけられる	「フランシスコ、行きなさい、また、わたしの家を修復しなさい、（あなたが）見ているとおり、すべて壊れかかっています」	驚き、震え、神のみことばを感じて恍惚状態に。キリストがご自分の血によって獲得された教会を意味することを、聖霊によって後に知る。
小伝記	（聖）霊	三度、十字架から声が実際に聞こえる	「フランシスコ、行きなさい、わたしの家を修復しなさい、（あなたが）見ているとおり、すべて壊れかかっています」	恐れ、震えた後、喜ぶ。キリストがそのとうとい血と引き換えに手になさった教会そのものであることを、聖霊によって後に知る

[3] Cf. URIBE, Fernando, *Itinerari francescani. Visita ai luoghi dove visse san Francesco*, p.62.

＊三仲間：『三人の仲間たちによる伝記』（1244-1247 年/ 1276 年以降）
＊2 チェラーノ：チェラーノのトマス『霊魂の憧れの記録』（1247 年）
＊3 チェラーノ：チェラーノのトマス『奇跡の書』（1250-1252 年）
＊クララ伝記：（チェラーノのトマス）『おとめ聖クララの伝記』（1255 年）
＊大伝記：聖ボナヴェントゥラ『聖フランシスコの（大）伝記』（1263 年）
＊小伝記：聖ボナヴェントゥラ『聖フランシスコの（小）伝記』（1266 年）

(6) 聖ダミアノ教会に聖フランシスコを導いた方

- 『**三人の仲間たちによる伝記**』：「霊において語りかけられて」（Dictum est illi in spiritu）聖ダミアノ教会に入っています。聖霊によって語りかけられたというよりは、十字架像のイエスさまが聖フランシスコの深い部分に語りかけられたように見えます。
- 『**奇跡の書**』：『霊魂の憧れの記録』より簡潔な描写となっています。
- 『**おとめ聖クララの伝記**』：聖クララの生涯を中心としており、この出来事は非常に簡潔にしか記されていません。
- **その他の伝記**：聖フランシスコが（聖）霊によって聖ダミアノ教会に導かれたことを記しています。
  —『霊魂の憧れの記録』：霊に導かれて（spiritu ducente）
  —『大伝記』：霊に導かれて（instigante se spiritu）
  —『小伝記』：霊に導かれて（instigante se spiritu）
  ルカ福音書やヨハネ福音書にも、**聖霊によってイエスさまのこころを深く受けとめられる**ことが記されています。

《こんにちのわたしたちに照らして》

わたしたちは、教会に行くことはあっても、ほとんどの場合、聖霊によって導かれたとは考えないでしょう。しかし福音書によれば、**教会においてイエスさまとの深い交わりを体験し、イエスさまの思いを受けとめることができるのは、自分の力、努力によるもの、というよりは、聖霊の働きによる**ことが分かります。

聖霊の助けによって、あたたかくへりくだるイエスさまのこころを深く受けとめることができたら。

(7) 十字架像の板絵が語りかける様子

—『**三人の仲間たちによる伝記**』：この伝記では、聖フランシスコが聖ダミアノ教会に入ったのは、霊において（in spiritu）語りかけられたためです。
この流れからすると、十字架像のイエスさまは、聖フランシスコの霊において語りかけておられるように思えます。そのイエスさまは、「いつくしみとやさしさをもって」（pie ac benigne）語りかけておられます。聖フランシスコは、「霊魂において真に感じ」（in anima sua veraciter sensit）ています。聖フランシスコにとって、真に深い霊的な体験であったことが表現されています [4]。

—『**霊魂の憧れの記録**』：十字架像のイエスさまの唇が動いています。たぐいまれな奇跡であることが非常に強調されています [5]。十字架像のイエスさまは、聖フランシスコに精神的に働きかけるというより、もっと目に見える形で語りかけておられます [6]。
チェラーノのトマスは、より小さき兄弟会の 1244 年の総会議の決定に基づき、聖フランシスコのし

---

[4] Cf. MARANESI, Pietro, *Facere misericordia. La conversione di Francesco d'Assisi: confronto critico tra il Testamento e le Biografie*, Edizioni Porziuncola, S. Maria degli Angeli 2007-2024[2], p.188.
[5] Cf. ACCROCCA, Felice, *Ti indicherò il cammino. Francesco e il crocifisso di san Damiano*, Edizioni Porziuncola, S. Maria degli Angeli 2010, pp.20-21; Id., *Il crocifisso di san Damiano. Arte, storia e spiritualità*, Edizioni Porziuncola, S. Maria degli Angeli 2024, p.48.
[6] Cf. MARANESI, Pietro, *Facere misericordia. La conversione di Francesco d'Assisi: confronto critico tra il Testamento e le Biografie*, p.213.

るし、奇跡、事柄、ことばをまとめるよう、求められました。こうして、最初の伝記『祝福されたフランシスコの生涯』と相互に補完できるような形で『霊魂の憧れの記録』を記し、聖フランシスコが示した理想を表現しようとしました。

このような背景のもと、十字架像の板絵からの語りかけは、聖フランシスコがその時点で神さまとの深い交わりに至り、神さまから重要な使命を授かっていた出来事として捉えられています[7]。

―**聖ボナヴェントゥラ**：『大伝記』と『小伝記』は唯一、声が「三度」聞こえたことを記しています。何らかの象徴的な意味が考えられていると言われます。三位一体の神さま、または聖フランシスコの修復した三つの教会、あるいは聖フランシスコによって創立される三つの会（第一会：現在のフランシスコ会、カプチン・フランシスコ修道会、コンベンツアル聖フランシスコ修道会）、第二会：聖クララ会や聖クララの会則を用いる会、第三会：現在の在世フランシスコ会と聖フランシスコ律修第三会）を思い起こさせます[8]。他方、幼いサムエルが神殿で三度神さまから呼ばれたことをも思い起こさせます[9]。このような象徴的な意味も含みながら、聖フランシスコに十字架のイエスさまが深く働きかけていることを強調しているでしょう[10]。

聖フランシスコは、『遺言』において、聖ダミアノ教会の十字架像から語りかけられた出来事を記していません。最も初期の伝記であるチェラーノのトマス『祝福されたフランシスコの生涯』やシュパイエルのユリアノ『聖フランシスコの伝記』でも触れられていません。

だからと言って、この出来事が後の捏造と言い切ることはできないでしょう。というのも、聖フランシスコが体験した多くの出来事は『遺言』に記されていないからです。『遺言』では、あまりに神秘的な出来事には触れられず、自分の力・努力を強調したり、自分への高い評価につながったりする表現を避けようとしていたかもしれません。また、伝記が最も早く記された頃に、伝記作家たちにこの出来事が伝えられていなかったことは十分あり得ます。

《こんにちのわたしたちに照らして》

こんにち、イエスさまから直接的に声を聞くというより、みことば、秘跡、人との関わり、出来事、大自然などを通して、イエスさまのことばを思い起こすか、イエスさまからの語りかけ・働きかけを感じる、という体験をしているでしょう。

奇跡的な働きかけを求めることも悪くはありませんが、イエスさまは、わたしたちといつも共におられ、わたしたちのすべてを誰よりも深く受けとめながら、神さまのあたたかなこころを伝えてくださっています。それを忘れていたり、気づいていなかったりしているでしょう。最後の晩餐においてイエスさまが聖フィリポに仰せになったことばが思い起こされます。「こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか」（ヨハネ 14･9）。

聖霊の助けによって、イエスさまが十字架の姿でわたしたちに寄り添い、わたしたちと共におられ、わたしたちのすべてを誰よりも深く受けとめ、神さまのあたたかなこころを伝えてくださっていることを深く感じ取ることができたら。

(8)　十字架像が聖フランシスコに語りかけたことば

十字架像が聖フランシスコに語りかけたことばは、『三人の仲間たちによる伝記』では、**「フランシスコ、わたしの家が壊れかかかっているのが見えませんか。行きなさい、わたしのためにこれを修復しなさい」**

---

[7] Cf. Id., *Facere misericordia. La conversione di Francesco d'Assisi: confronto critico tra il Testamento e le Biografie*, pp.212-216.
[8] Cf. CLASEN, S., *S. Bonaventura S. Francisci Legendae maioris compilator*, in *Archivum Franciscanum Historicum* 54 (1961), p.254.
[9] Cf. ACCROCCA, Felice, *Ti indicherò il cammino. Francesco e il crocifisso di san Damiano*, p.25; Id., *Il Crocifisso di San Damiano. Arte, storia, spiritualità*, p.53.
[10] Cf. MARANESI, Pietro, *Facere misericordia. La conversione di Francesco d'Assisi: confronto critico tra il Testamento e le Biografie*, pp.235-236.

という表現です（Francisce, nonne vides quod domus mea destruitur? Vade igitur et repara illam mihi）。

その他の古い時代の伝記、つまり、『霊魂の憧れの記録』『奇跡の書』『おとめ聖クララの伝記』『大伝記』『小伝記』では概ね、**「フランシスコ、行きなさい、わたしの家を修復しなさい、（あなたが）見ているとおり、すべて壊れかかっています」**といった表現です（『霊魂の憧れの記録』：Francisce, vade repara domum meam, quae ut cernis, tota destruitur）。5 つの伝記における表記の違いはわずかです。「行きなさい」ということばの後に、『奇跡の書』と『おとめ聖クララの伝記』は「,」を入れ、『大伝記』と『小伝記』は「et」（また、そして）ということばを入れているだけです。

本質的な部分は、『三人の仲間たちによる伝記』もその他の伝記も、共通しているように見えます。

(9)　「修復しなさい」ということばについて

「修復する」と訳せる動詞（reparare）には、①回復する、取り戻す、②作り直す、再建する、③元気を回復させる、生き返らせる、④再開する、⑤（代償として・引き換えに）得る、という意味があります[11]。

この出来事に関連して教会について用いる場合、「建て直す」という訳や「修復する」という訳が考えられます。「建て直す」には、①「建てかえる。家屋などを、それまでのものをこわして新たに建てる。改築する」、②「改めて、もとの状態にする。改めて態勢を整え、向かう態度をとる。改め直す」という意味があります。「修復する」ということばは、修理して元の形にもどすことを指します[12]。

後述するように、聖フランシスコは、それまでの教会を壊して最初からもう一度建てる、というイメージを抱いていなかったでしょう。「建て直す」ということばを②の意味で用いるか、「修復する」ということばを用いたほうが良いように思えます。

(10)　聖フランシスコに語りかけた「修復しなさい」ということばのほんとうの意味

聖ダミアノ教会の十字架像が聖フランシスコに語りかけたことばは、何を意味しているのでしょうか。「修復しなさい」ということばは、何を意味していたのでしょうか。

『三人の仲間たちによる伝記』とチェラーノのトマス『霊魂の憧れの記録』は、十字架像のイエスさまのことばによって聖ダミアノ教会を修復する行為の延長上に、聖ダミアノ教会の場所に聖クララたちが住んで新しい修道会をはじめることを記しています。

一方、『霊魂の憧れの記録』と聖ボナヴェントゥラは、十字架像のイエスさまのことばが、**イエスさまの十字架の血によってあがなってくださった教会のこと**を指している、と捉えています。

20 世紀以降に聖フランシスコについて記された伝記は概して、**教会全体のこと**を指している、と捉えています。

- 「キリストの教会をさして言われた命令」[13]
- 「カトリック教会全体の霊的な意味での再建」[14]

---

[11] 『羅和辞典』改訂版、水谷智洋編、研究社、東京 2009 年。*Oxford Latin Dictionary*, GLARE, P. G. W. (Edited by), Oxford University Press, Oxford 1982 – 2012², p.1781 では、この動詞の意味は次のとおり。1. To recover, make good, get back, restore, 2. To obtain as a due return, obtain in exchange, 3. To recreate, reconstruct, renew, to repair, rebuild, restore, to revive, restore (strength, vigour, etc.), to reinvigorate (a person, etc.), 4. To renew, revive (an activity, etc.).

[12] 『精選版日本国語大辞典』小学館、東京 2005 年。

[13] エングルベール、オメル『アッシジの聖フランシスコ』（ENGLEBERT, Omer, *Vie de Saint François d'Assise*, Albin Michel, Paris 1956）平井篤子訳、創文社、東京 1969 年、p.54。

[14] ルゴフ、ジャック『アッシジの聖フランチェスコ』（LE GOFF, Jacques, *Saint François*, Éditions Gallimard, Paris 1999）池上俊一、梶原洋一訳、岩波書店、東京、p.53。

- 「霊的な建物としての教会を救うこと」[15]
- 「教会の精神的刷新と復興」[16]
- 「信仰者の集まりである霊的生命体としての教会の精神的刷新」[17]
- （『霊魂の憧れの記録』の記述について：）「普遍的な領域における使命」であり、「聖フランシスコによる刷新の活動は全教会に及ぶことになる」[18]
- （『大伝記』の記述について：）「アッシジの人、聖フランシスコは、主から救いの使命を身に帯び、聖フランシスコは、教会のからだ全体にこの救いの使命を刻み込むよう、導かれる」[19]。「教会全体にとっての普遍的な使命」[20]。
- 「教会の刷新に自ら貢献すること」[21]。

では、聖フランシスコは、当時の教会をどのように見ていたのでしょうか。

12 世紀のヨーロッパでは、聖職者や修道者の良くない行動も見られました。性的欲求や金銭・財産への欲求を満たそうとする行為、聖職売買、教会の特権の売買などです。聖フランシスコが生まれた時代にも、罪を犯している司祭の執り行う秘跡が有効か否か、議論されていました。

カトリック教会の教えや聖職位階制度に対立し、異端とされた人々も生じていました。

カタリ派は、12 世紀半ばにバルカン半島を経て、ブルガリア地方にて二元論でキリスト教を捉える人々を通してヨーロッパに伝わったと言われます。イタリアでは中部・北部に広まり、自分たちを「善良なキリスト者」とする一方、教会の教えとはかなり異なることを信じました。すべてを善と悪に分け、精神的なものを善、物質的なものを悪としました。イエスさまの受肉・受難・死を幻覚とし、地獄や秘跡を認めず、預言書以外の旧約聖書を認めず、独自の教会組織を作りました。中でも「完全な者」と呼ばれる人々は、私有財産を持たず、争いや肉食を避けました。人々への教えは、地方のことばでシンプルに伝えられたので、民衆や教会に反発する人々を引きつけました。

ヴァルド派は、イタリアでは北方に広まり、福音に従って質素な生活を送り、聖書や教父たちの文書を地方のことばに翻訳、黙想しました。聖職者でない人々も女性たちも福音を宣べ伝える一方、ローマ教会の聖職位階制度を認めなくなり、異端とされました。

こうした中、回心後の聖フランシスコの歩みを見ますと、**聖フランシスコは教会を非難せず、既存の修道生活や社会の構造を大きく超えて、イエスさまの福音に従って生きようと**しました[22]。

「教会を修復しなさい」ということばの意味を、聖フランシスコの目指した生き方に照らしてみるならば、**人々と共に福音に従って生きるように、とりわけ、あたたかくへりくだるイエスさまのこころに人々と共に生かされるように、招かれていた**のではないでしょうか。（騎士になることを目指したように）自分の考案した計画を自分の労力・努力で実現するのではなく、**神さまに深くより頼み、神さまに様々な形で支えられながら、あたたかくへりくだるイエスさまのこころに生かされる**ことでしょう。

聖フランシスコは、「教会を修復しなさい」というこのような意味を、最初から理解していたわけではあ

---

[15] フルゴーニ、キアーラ『アッシジのフランチェスコ―ひとりの人間の生涯―』（FRUGONI, Chiara, *Vita di un uomo: Francesco d'Assisi*, Giulio Eniaudi editore, Torino 1995 e 2001）三森のぞみ訳、白水社、東京 2004 年、p.52。

[16] 川下勝『太陽の歌―アシジのフランシスコ―』聖母文庫、長崎 1991 年、p.43

[17] 川下勝『アッシジのフランチェスコ』清水書院、東京 2004 年、p.33。

[18] ACCROCCA, Felice, *Ti indicherò il cammino. Francesco e il crocifisso di san Damiano*, p.21; Id., *Il Crocifisso di San Damiano. Arte, storia, spiritualità*, p.49.

[19] Id., *Ti indicherò il cammino. Francesco e il crocifisso di san Damiano*, p.24; Id., *Il Crocifisso di San Damiano. Arte, storia, spiritualità*, p.53.

[20] Cf. MARANESI, Pietro, *Facere misericordia. La conversione di Francesc d'Assisi: confronto critico tra il Testamento e le Biografie*, p.238.

[21] PATTON, Francesco, *Va' e ripara la mia casa. San Francesco d'Assisi e il Crocifisso di San Damiano*, TS Edizioni, Milano 2022-2024[2], p.21.

[22] MANSELLI, Raoul, *San Franceso d'Assisi. Editio maior*, Edizioni San Paolo, Cinisello Balsamo 2002, pp.72-91; MERLO, Grado Giovanni, *Eretici ed eresie medievali*, Il Mulino, Bologna 1989, pp.39-56; *Catari* e *Valdo* in *Medioevo. Le Garzantine*, Garzanti, Milano 2007.

りません。とは言え、聖フランシスコのその後の行動を見ると、フォリーニョまで出かけて生地や馬を売り、父親に反対されて司教さまに訴えられても質素に教会のそばで生活することをやめませんでした。ですから、聖ダミアノ教会における十字架像の語りかけによって聖フランシスコが深い部分から変えられたことは確かでしょう[23]。

《こんにちのわたしたちに照らして》

こんにちの視点から当時の教会を見るとき、イエスさまの望みにふさわしくない状態も多々あったでしょう。

こんにちの教会においても、イエスさまの望みにふさわしくない状態が別の形で見られるかもしれません。教会では、聖職者・奉献生活者・何らかの責任者たちが尊敬されがちですが、場合によってパワーハラスメントや、教会共同体という「家」におけるモラルハラスメント、その他の様々なハラスメントも生じ得ると思います。

わたしたちは、「教会の良くない状態を批判して自分の理想に合う教会を作る」というより、**聖霊の助けによって現実をありのままに受けとめながら、あたたかくへりくだるイエスさまのこころに共に生かされる、という視点から捉え直し、そのこころに少しずつ生かされることができたら。**

(11) ハンセン病の人々といつくしみを行った出来事との結びつき

『遺言』には、聖ダミアノ教会の十字架像から語りかけられた出来事は記されていませんが、この出来事は、ハンセン病の人々との交わりの出来事と深く結びついている、と言われます。

出来事	人々から 見捨てられた場	受けとめてもらう 聖フランシスコ	へりくだるよう 導かれる 聖フランシスコ	あたたかな こころを示す 聖フランシスコ
『遺言』に記されているハンセン病の人々との交わり	人々から見捨てられたハンセン病の人々を通して	聖フランシスコが罪の中にいた頃に越えられなかった弱さを受けとめる神さま	ハンセン病の人々の中に導く神さま	ハンセン病の人々と痛みを受けとめ、共にいつくしみを行う
聖ダミアノ教会の十字架像からの語りかけの出来事	人々から見捨てられ崩れかかった小さな教会において 十字架のイエスさまを通して	聖フランシスコの弱さも罪もすべて受けとめるイエスさま	崩れかかった小さな教会に入るよう導く聖霊	十字架のイエスさまを認識し、あたたかくへりくだるイエスさまのこころを分かち合うよう促される

- **聖フランシスコの『遺言』が示すハンセン病の人々との交わり**：聖フランシスコは、『遺言』の最初に、神さまの働きかけによってハンセン病の人々といつくしみを行った出来事を記しています。**ハンセン病の人々は社会との交わりを断たれた生活を送っていましたが、聖フランシスコにとってはその人々を見ることはあまりにも苦いこと**でした。**聖フランシスコには、ハンセン病の人々との間に自分では越えられない壁がありました。**しかし**神さまは、聖フランシスコの弱さを受けとめ、壁をあたたかなこころで溶かし、聖フランシスコをハンセン病の人々の中に導かれました。**こうして**聖フランシスコは、へりくだってハンセン病の人々のこころを受けとめ、いつくしみを共に行いました。**苦かったものは、甘いものに変えられました。

  チェラーノのトマス『霊魂の憧れの記録』と聖ボナヴェントゥラ『大伝記』は、ハンセン病の人との最初の交わりにおいて、聖フランシスコがハンセン病の人に接吻し金銭を渡した後に馬に乗ると、ハンセン病の人の姿が消えていたことを伝えています。このような伝記の描写には、ハンセン病の人の

[23] Cf. MANSELLI, Raoul, *San Franceso d'Assisi. Editio maior*, pp.131-132.; ACCROCCA, Felice, *Il Crocifisso di San Damiano. Arte, storia, spiritualità*, p.89.

うちにイエスさまを見る視点が含まれているように見えます[24]。『遺言』において聖フランシスコは、最初にハンセン病の人々と共にいつくしみを行った際に、そのハンセン病の人々の中にイエスさまを見出した、とは記していません。とは言え、意識しなくても神さまの望みに適った形で、人としての深いあたたかなこころを示しています[25]。

- **聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまから語りかけられる出来事**：こうした体験の後、**聖フランシスコは聖霊に導かれ、人々からはおそらく見捨てられているような崩れかかった小さな聖ダミアノ教会に入りました。その教会においてイエスさまは、十字架の死に至るまでへりくだって人のすべてを受けとめる姿で、聖フランシスコのすべても受けとめながら、ご自分の家を修復するよう、望まれました。十字架像のイエスさまの望みは、あたたかくへりくだるイエスさまのこころをすべての人々と分かち合うこと**のように思えます。
- **二つの出来事の共通点**：このように見ますと、二つの出来事には共通点があり、結ばれているように見えます。
  ―形は違っても、ハンセン病の人々も聖ダミアノ教会も、**人々から見捨てられていました。**
  ―**神さまは、**そのような「場」を通して聖フランシスコに働きかけ、**罪と弱さを深く受けとめておられます。**
  ―**神さまは、**ハンセン病の人々の**中に入るように**、また、小さく崩れかかった聖ダミアノ教会の**中に入るように**、聖フランシスコを導かれ、**聖フランシスコはへりくだって中に入ることができました。**
  ―**神さまによって、**聖フランシスコは、**ハンセン病の人々の痛みを受けとめて共にいつくしみを行うように、十字架のイエスさまを認識してあたたかくへりくだるイエスさまのこころを分かち合うように、**導かれました。

ハンセン病の人々との交わりにおいて神さまがいつくしみ深く働きかけてくださっていることは、聖ダミアノ教会での出来事によって明らかにされました。ハンセン病の人々との交わりを体験することによって、聖ダミアノ教会での出来事も生じました[26]。

聖フランシスコの『遺言』の表現に従えば、聖フランシスコが自分の弱さを超えてハンセン病の人々の痛みを受けとめながら共にいつくしみを行えたのは、聖フランシスコの力、努力によるのではなく、**神さまの働きかけによります**。聖ダミアノ教会で聖フランシスコの弱さを受けとめてあたたかなこころを分かち合うよう、深い部分から聖フランシスコに力をくださったのは、**十字架像のイエスさま**です。

《こんにちのわたしたちに照らして》

わたしたちにも、それぞれ小ささ、弱さがあります。それをありのままに受けとめて、神さま、イエスさまにおゆだねする際にも、聖霊の助けをお願いしたほうが良いように思われます。聖フランシスコは自分の力で自分の弱さを受けとめたのではなく、神さま、イエスさまが働きかけて、聖フランシスコの弱さをありのままに受けとめておられるからです。わたしたちは、**聖霊の助けによってありのままの自分を受けとめ、神さま、イエスさまにおゆだねできたら。**

神さま、イエスさまとの深い交わりは観念的なものではないでしょう。というのも、神さま、イエスさまはいつくしみそのものですから、神さま、イエスさまと深く交わるなら、あたたかなこころを分かち合うよう強く促されるからです。聖フランシスコによれば、あたたかくへりくだるイエスさまのこころを分かち合う力も、神さま、イエスさまがくださいます。**聖霊の助けによって、あた**

---

[24] Cf. MARANESI, Pietro, *Facere misericordiam. La conversione di Francesco d'Assisi: confronto critico tra il Testamento e le Biografie*, pp.269-270; Id., *Umiltà, lode e misericordia: i segni santi delle stimmate di Francesco*, Edizioni Biblioteca Francescana, Milano 2025, p.19.
[25] Cf. Id., *Per-dono per lo tuo amore. La via alla pace di Gesù e Francesco d'Assisi*, Messaggero di sant'Antonio, Padova 2025, pp.107-109.
[26] Cf. Id., *Il mio Testamento. Le ultime parole di Francesco ai suoi luoghi*, Cittadella Editrice, Assisi 2025, pp.65-66, 70-72.

たかくへりくだるイエスさまのこころを少しずつ分かち合えたら。

(12) 聖フランシスコの体験した神さまからの平和・ゆるし・癒し・深い喜び

聖ダミアノ教会において聖フランシスコに語りかけた十字架像は、苦しみながら頭を垂れて目を伏せている姿ではありません。ヨハネ福音書から着想を得て、復活なさり栄光に満ちるキリストを合わせて表現しています。大きく開かれた目は、キリストが今も生きておられることを示しており、そのまなざしは天の御父に向いています。

古い時代の伝記は、聖フランシスコが聖ダミアノ教会の十字架像から語りかけられた後、十字架のイエスさまの姿を大切にするようになったことを伝えています。

とは言え、『遺言』において、ハンセン病の人々と共にいつくしみを行った出来事の直後に記されている、『主を礼拝し賛美する祈り』は、イエスさまの苦しみに注目してはいません。**イエスさまの十字架によってもたらされたいつくしみ深い救いを思い起こし、主を礼拝し、賛美**しています。「主イエス・キリスト、わたしたちは、全世界にあるあなたのすべての教会において、あなたを礼拝し、あなたを賛美します。あなたは、ご自分の聖なる十字架によって世をあがなってくださったからです」。

聖フランシスコが聖ダミアノ教会で祈っていたとも言われる『十字架につけられた主のみ前での祈り』も存在します。「おお、高く、また栄光に満ちる神、わたしの心の闇を照らしてください。また、わたしにお与えください。まっすぐな信仰、確かな希望と完全な愛、分別と認識を。主よ、わたしがあなたの聖なるまことの掟を実行できますように。アーメン」。この祈りも、イエスさまの苦しみに注目してはいません。**イエスさまのあたたかなこころに生かされるようにという願いが中心**です。

聖ダミアノ教会の十字架像は、イエスさまの苦しみだけでなく、むしろイエスさまが栄光にあずかっている姿を強調しています。こうしたことから、聖フランシスコは、聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまから、**イエスさまの苦しむ姿だけでなく、むしろ「へりくだって自分の罪も弱さもいつくしみ深く受けとめながら平和・ゆるし・癒し・喜びをお伝えになるイエスさまのあたたかなこころ」を深く感じ取った**のではないでしょうか。とりわけ『三人の仲間たちによる伝記』は、聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまからことばを聞いたとき、聖フランシスコが喜んだことを伝えています。

聖ダミアノ教会の十字架像の開かれた目は、裁きの目ではなく、**いつくしみ深い御父からの平和・ゆるし・癒し・深い喜びを伝えるまなざし**ではないでしょうか[27]。

《こんにちのわたしたちに照らして》

聖フランシスコは回心後、イエスさまの受難についてよく思いめぐらすようになりました。他方、聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまから語りかけられたときは、イエスさまの苦しみだけでなく、イエスさまのあたたかなこころを深く感じたと思われます。

こんにちのカトリック教会の十字架像は痛々しい姿で表現されています。実際、**イエスさまは、わたしたちの痛み、悲しみ、苦しみ、嫉妬、苛立ち、怒り、憎しみ、殺意、嘲り、侮辱もすべて受けとめておられます**。同時に、**復活なさってわたしたちに寄り添い、わたしたちと共におられ、わたしたちのすべてを受けとめながら、神さまのあたたかなこころ、平和、ゆるし、癒し、深い喜びを伝えてくださるかたです。**

聖霊の助けによってありのままを受けとめて、神さまにおゆだねしながら、イエスさまのあたたかなこころ、平和、ゆるし、癒し、深い喜びを少しずつ分かち合えたら。

(13) 聖ダミアノ教会の十字架像との交わりと聖痕との結びつき

---

[27] Cf. Id., *Per-dono per lo tuo amore. La via alla pace di Gesù e Francesco d'Assisi*, pp.109-117; Id., *L'appartenenza a Cristo e ai fratelli. Il segno delle stimmate*, Edizioni San Paolo, Cinisello Balsamo 2023, pp.28-35; Id., *Umiltà, lode e misericordia: i segni santi delle stimmate di Francesco*, pp.19-20, 39-44.

チェラーノのトマス『霊魂の憧れの記録』と『奇跡の書』は、**聖ダミアノ教会において十字架像のイエスさまが聖フランシスコに語りかけた出来事は、いずれ聖フランシスコの聖痕によってその身体にも示される**、と捉えています。

『大伝記』は、伝記の中で唯一、聖フランシスコが聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまから声を聞いた際に恍惚状態に入ったことを伝えています。『大伝記』では、このような描写によって聖フランシスコは**神さまの神秘に導かれており、いずれ聖痕においてすべてのものから引き離されて、完全に神さまの神秘が示される**ことがほのめかされています[28]。

聖フランシスコ自身は、聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまから語りかけられた出来事についても、聖痕をいただいた出来事についても、直接的には記していません。しかし、前者で体験したことと似たようなことが、後者においても生じていたのではないか、と思われます。つまり、**神さまの限りないいつくしみ、癒しを深く感じ取った**ということです[29]。

聖フランシスコは、神さまによって、自分の弱さを受けとめてもらいながらハンセン病の人々の中に入り、彼らの痛みを受けとめながら共にいつくしみを行いました。そして、神さまに支えられながらあたたかくへりくだるイエスさまのこころを分かち合うよう、聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまによって促されました。

それから 19 年後の 1224 年。聖フランシスコの会に入った、より小さき兄弟たちの人数はおよそ 5000 人にも及んでいたと言われます[30]。聖フランシスコの理想とは異なる生き方をしている兄弟たちも多かったようです。1220 年頃から、それを強く感じるようになったと思われます。より小さき兄弟会のために保護枢機卿を教皇庁に願い、総長職の実務を他の兄弟に委ねています。1221 年に総会議に提案したいわゆる『勅書のない会則』は教皇さまからの勅書による認可が得られませんでした。そのため、最終的な会則の編纂に入り、1223 年には正式に認可されますが、緊張感は続いていました。深い葛藤があったでしょう[31]。

ハンセン病の人々との交わりの際には、聖フランシスコにとってハンセン病の人々を見るのが「苦い」ことでしたが、神さまによって聖フランシスコはハンセン病の人々の中に受け入れられたように見えます。他方、1224 年の時点では、聖フランシスコにとって自分の理想と異なる生き方をする兄弟たちを受け入れるのは「苦い」ことであると同時に、この兄弟たちも聖フランシスコを受け入れるのは「苦い」ことだったでしょう。

1224 年における聖痕の出来事では、**十字架のイエスさまがへりくだって聖フランシスコの弱さを受けとめる中、聖フランシスコは困難を解消できなくても、あたたかくへりくだるイエスさまのこころを分かち合い続けるよう、癒しと慰めをいただいた**のではないかと思われます。

---

[28] Cf. Id., *Facere misericordiam. La conversione di Francesco d'Assisi: confronto critico tra il Testamento e le Biografie*, pp.236.

[29] Cf. Id., *Caro Leone ti scrivo. Gli autografi di Francesco: memoria di una grande amicizia*, Messaggero di sant'Antonio, Padova 2020, pp.137-144.

[30] ジャーノのヨルダノ『年代記』16 によれば、1221 年の時点で、修練者と誓願者を合わせて 3000 人。おそらく 1221 年から 1223 年の間の総会議で 5000 人が集まっていたことを、聖ボナヴェントゥラ『大伝記』I･4･10、『アッシジ編纂文書』18、『完全の鏡』68、エックレストンのトマス『より小さき兄弟たちのイングランド渡来（定住）』39 が伝えています。DI FONZO, L., ODOARDI, G. e POMPEI, A., *I Frati Minori Conventuali. Storia e vita 1209-1976*, Curia Generalizia O.F.M.Conv., Roma 1978, p.73 は 1221 年の時点で約 5000 人、IRIARTE, Lázaro, *Storia del francescanesimo* (*Historia franciscana*, Provincia franciscana ofm, de San José de Valencia, Aragón y Baleares, 1979), MASTROIANNI, Fiorenzo e COLOMBO, Carlo (traduzione di), 1982-1994, Edizioni Dehoniane, Roma 1982, p.40 は 1221 年で 3000 人、1222 年で 5000 人の兄弟たちがいたとしています。

[31] Cf. Id., *Caro Leone ti scrivo. Gli autografi di Francesco: memoria di una grande amicizia*, pp.130-133; Id., *Il progetto evangelico di Francesco di Assisi. Un cammino esistenziale tra illusione e delusione*, in *Frate Francesco e i suoi frati lungo i secoli. Dalla prima fraternità alla divisione dell'Ordine con la bolla Ite Vos*, CZORTEK, Andrea (cura di), Cittadella Editrice, Assisi 2018, pp.9-50.

《こんにちのわたしたちに照らして》

わたしたちは、自分の性格、体験、感情にとらわれて、狭い理想を自分や他の人や状況に求めて、苛立つときがあるかもしれません。深く傷ついて（または、深く傷つけられたと感じて）、悲しみ、苦しみ、怒りを感じるときもあるかもしれません。ほんとうに自分の理想が正しいときもあるかもしれませんが、それが神さまの望みであれば、あたたかな謙虚さもあることでしょう。

聖霊の助けによって、ありのままを神さま、イエスさまにおゆだねしながら、あたたかくへりくだるこころを大切にできたら。

(14) 聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまのことばをこんにちのわたしたちに照らして

これまで思いめぐらしてきたことを踏まえながら、聖ダミアノ教会の十字架像のイエスさまが仰せになったことばをこんにちのわたしたちに照らして思いめぐらしてみます。

❶ 「フランシスコ」

十字架像のイエスさまは、聖フランシスコを名前で呼びました。

聖書では、名前は名を持つもの全体を指していると考えられています。名前を知って呼ぶことは、その名を持つものを把握していることをほのめかします。**イエスさまが名前をお呼びになる行為は、イエスさまがその人を深く受けとめておられることを意味**するでしょう。

聖フランシスコは、それまで何度も十字架を見ていましたが、イエスさまのこのような側面をはじめて深く感じたのではないでしょうか。

イエスさまは、わたしたちに寄り添い、わたしたちと共におられ、わたしたちのすべてを誰よりも深く受けとめながら、招いてくださっています。聖霊の助けによって、その招きを感じ取り、少しずつ応えることができたら。

❷ 「行きなさい」

十字架像のイエスさまのメッセージが聖ダミアノ教会の修復だけを指しているなら、たとえ聖フランシスコがその建材を求めに出かけたとしても、聖ダミアノ教会にとどまることになります。

既に見てきたように、「神さまにより頼みながら、神さまに支えられて、人々と共に福音に従って生きるように」、とりわけ、「あたたかくへりくだるイエスさまのこころに人々と共に生かされるように」招かれているならば、物理的に場所を移動することだけでなく、**イエスさまのあたたかなこころを感じながら、イエスさまによって、利己主義的な姿勢や自分の小さな枠から出ること**を指しているでしょう。

わたしたちは、意識しようがいまいが、自分の性格、体験、感情にとらわれて、イエスさまのあたたかなこころに深く生かされるのが難しいときもあるかもしれません。**聖霊の助けによって、イエスさまのあたたかなこころを深く感じながら、イエスさまによって、狭い枠から少しずつ出ることができたら。**

❸ 「わたしの家」

初期の教会ではしばしば、「家」ということばによって、教会共同体をイメージしました。教会建築物がなく、信者の家に集って祈り、分かち合いを行っていたからです。

イスラエルでは、神さまが神殿におられることをイメージしていましたが、イエスさまは、聖体のお姿で**全世界の教会に**おられます。また、建物としての教会だけでなく、**教会共同体、家庭に**も共にいてくださいます。**わたしたち自身と共にいてくださいます**。「わたしの家」ということばのイメージは、教会建築物だけではなく、人や交わりなど幅広くあてはめることができるでしょう。

わたしたち（教会の人々）が小ささ、弱さを抱え、イエスさまのこころに生かされていなくても、イエスさまはそれを受けとめながら、わたしたち自身や家庭や教会共同体などと共にいてくださいます。

イエスさまがわたしたちに寄り添い、わたしたちと共におられ、わたしたちのすべてを深く受けと

めてくださっていることについて、聖霊の助けによって感謝できたら。わたしたちも、**聖霊の助けによってイエスさまの思いを受けとめると同時に、適切な形で他の人の思いを受けとめることができたら。**

❹ **「修復しなさい」**

このことばは、元の形に戻すことを意味するでしょう。

聖フランシスコの生涯に照らしてみると、**「神さまにより頼みながら、神さまに支えられて、人々と共に福音に従って生きるように」、とりわけ、「あたたかくへりくだるイエスさまのこころに人々と共に生かされるように」招かれている**でしょう。**聖霊の助けによって、そのような歩みをたどることができたら。**

❺ **「（あなたが）見ているとおり、すべて壊れかかっています」**

聖書には、目とこころを深く結びつける捉えかたもあります。神さま、イエスさまがご覧になるときは、深く受けとめておられる様子を示しています。

「神さまにより頼みながら、神さまに支えられて、人々と共に福音に従って生きていない状態」、とりわけ「あたたかくへりくだるイエスさまのこころに人々と共に生かされていない状態」も、受けとめるよう招かれているかもしれません。他の人だけでなく、自分の中にもそのような側面があるかもしれません。それにも関わらず、イエスさまは共にいてくださいます。

聖霊の助けによって、ありのままを受けとめ、神さま、イエスさまにおゆだねしながら、あたたかなこころを大切にできたら。

（聖フランシスコ年記事 n.E）